

KITANO
きたの広報

TOPICS

土曜日は毎週休診日になりました

これまで第1・3・5土曜日は外来診療を行っていましたが、2023年4月1日より毎週休診日になりました。土曜日にご来院されると救急外来(専門医が不在の場合あり、お待たせする時間も長くなる可能性があります)での対応となりますのでご了承ください。

土曜日が休診となる外来	下記を除く全外来
第1・3・5土曜日の診療を行う外来	小児外科外来 漏斗胸外来
毎週土曜日の対応を継続	外来透析

ホスピタルアートが完成しました

外来診療をお待ちいただく患者さんのために、京都芸術大学の学生さんたちが当院外来の中待合にホスピタルアートを施工していただきました。学生さんたちと当院職員が何度も話し合いを重ねてイメージのすり合わせを行い、外来の各ブロックに合わせたデザインを決定。

先日、その学生さんたちに当院の稲垣理事長と秦病院長から感謝状の贈呈を行いました。



寄附者一覧(2022年12月~2023年2月)

【法人】ナカジマ鋼管株式会社様 伸和サービス株式会社様 匿名:3社様
【個人】江岡 俊次様 安藤 由美子様 仲矢 紀美子様 鹿野 浩一様 松本 隆男様 匿名:14名様

QUESTIONNAIRE

読者アンケート募集!

「きたの広報」では、読者の方からのご意見・ご感想を募集しています。ご意見・ご感想は、QRコード*を読み取りいただき、アンケートフォームより送信してください。皆さまの“知りたい!”にお応えできるよう精進いたします。
※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

ご意見・ご感想をお待ちしています



公式Twitterをご覧ください



お気軽にフォローしてください。



https://twitter.com/kitano_koho

公式Facebookをご覧ください



スマートフォンからカンタンにアクセスいただけます。



LINE友達のご登録をお願いします

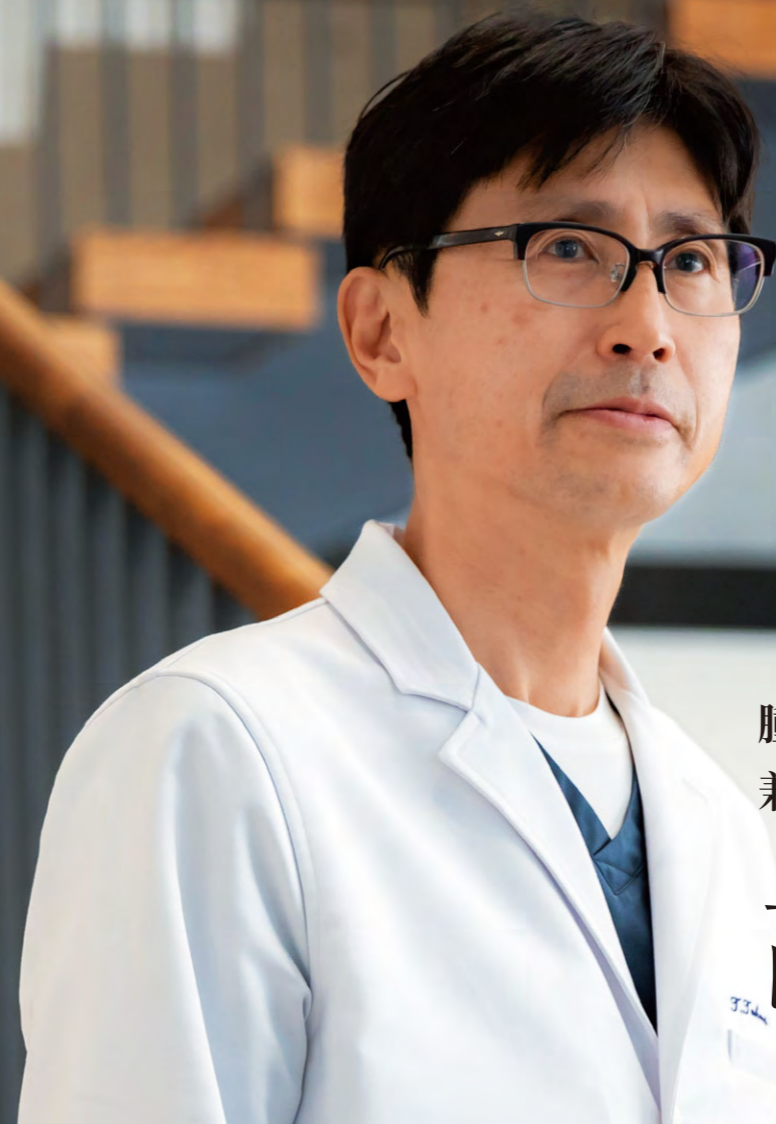


北野病院からのお知らせなどを配信させていただきます。



未来を照らす技術。
医療のキーとなる放射線治療。

高度な機器を駆使し、
患者さんに安全で
安心の放射線治療を
チーム医療でかなえます。



腫瘍放射線科 主任部長
兼 放射線治療センター長

たか ぎ たけ ひさ

高木 雄久

ハードとソフトが充実したがん治療の拠点

当院では、2021年4月に放射線治療センターを新館地下1階フロアに開設しました。

治療機器とシステムを最先端のものに一新させたのを機に、それまでの放射線科の一部門から分化し、よりハイレベルな放射線治療を提供するがん治療の拠点として稼働しています。入院することなく、外来で高度な放射線治療を受けることができるとして、多くの患者さんからもご好評を頂戴しています。

放射線治療は、手術、抗がん剤と並ぶがんの三大療法のひとつですが、治療自体に苦痛がなく、また、臓器を残して機能を温存したままがんの治療ができるので、患者さんにとっては体に負担の少ない手段です。そのため高齢者の方でも、安心して治療を受けていただくことが可能です。

当院では、体の外から放射線を照射するための高精度放射線治療用リニアックに加えて、体の中から照射する「内部照射」によって子宮頸がんなどを根治に導く小線源

治療装置を設置しています。そして、照射位置を細密に特定できる機器とリニアックを組み合わせることで、心臓への線量の影響を回避しながら乳がんの再発予防に働きかけるDIBH (Deep Inspiration Breath Hold : 深吸気息止め照射) や、動体追跡システムと連携することで、がんをピンポイントにとらえる動体追跡治療など、新しい治療法にも積極的に取り組んでいます。いずれも高い治療効果と副作用の低減の両立を実現しています。



ほぼすべてのがん治療をカバーできる高性能な機器とシステムがそろっているというハード面の充実に加えて、放射線治療センターのもうひとつの強みにマンパワーの充足が挙げられます。

放射線を扱うという点で、放射線治療の現場は通常の臨床現場よりもさらにスタッフに高い専門性が求められます。その点、当院には患者さんの症状を診断し、治療方針を決める医師に加えて、放射線の照射を物理工学的に、精緻にコントロールする「医学物理士」、正確で安全な放射線照射を実践する経験豊富な「診療放射線技師」、そして患者さんの心身のケアを行う「看護師」がワンチームとなって患者さんの治療に伴走します。とりわけ、医学物理士は日本にはまだまだ数少なく、実際の臨床現場で活躍する人は限られています。そうした放射線治療のスペシャリストがメンバーにいて、高精度な治療を数多く実施することが可能になっています。チームメンバー全員がそれぞれの専門性を発揮し、しっかりと連携することで、患者さんに安全で効果の高い、最善の放射線治療を提供することができています。



汎用性が高く、かつ高レベルな放射線治療を実現するリニアック「TrueBeam」

さまざまながんの形に合わせて照射する強度変調放射線治療 (Intensity Modulated Radiation Therapy : IMRT) や、画像を利用して腫瘍の位置をとらえて正確な照射を可能にする画像誘導放射線治療 (Image-guided radiotherapy : IGRT) などの高精度放射線治療に対応する機器です。従来の機器よりも高い線量率での照射が可能のため、短時間での放射線治療を実現します。

患者さんにやさしい 放射線治療の幅を広げる 3つの治療法にご注目!

放射線治療は、正常な組織をほとんど傷つけないことなく、がんだけを標的にして高い効果をあげる方向に進化しています。当院で実践する3つの新しい治療法をご紹介します。



腫瘍放射線科 副部長
あつ た とも こ
熱田 智子
診療放射線技師
いの う え まさ ゆき
井上 雅之
診療放射線技師
ささ がわ さよ こ
笹川 沙世子

動くがんを狙い撃ち！ 肝臓がん動体追跡治療

腹部にあるがんは、どうしても呼吸の影響で動いてしまいます。これまではそれを見越し、移動範囲を含めて広めに照射するのが一般的でしたが、それでは正常な組織にも照射してしまうことになり、課題となっていました。

当院では、呼吸によって動くがんに対処するために、新しい技術である「動体追跡治療」を主に肝臓がんの患者さんに対して行っています。肝臓は呼吸により10~20mm程度動きます。そこで、がん細胞の近くにあらかじめ金マーカーを入れ、その動きを画像でリアルタイムに追いかけて、狙った位置にマーカーがきた時だけ照射するという狙い撃ち照射を実施。現在では3mm以内という位置精度で照射しており、がんへの放射線量を十分に保ったまま、正常な組織への影響を可能な限り低くすることができます。仰向けに寝て、安静にいただいているだけで治療は進行しますので、患者さんの心身に負担の少ない治療法となっています。

肝臓がん

乳がんの再発予防に 深吸気息止め放射線治療

呼吸による臓器の動きを上手く取り入れた治療法に「深吸気息止め放射線治療」というものもあります。主に乳がん温存手術を受けた患者さんへの再発予防のための施術であり、心臓が近くにある左乳房への照射が必要な患者さんを対象に行っています。

この治療法は、患者さんに息を大きく吸ってもらった状態で、息を止めている間に放射線を照射します。それによって物理的に乳房と心臓の距離を離して、心臓への線量を低くする照射技術です。大きく息を吸うと心臓は下がり、乳房はちょっと上にあがります。その状態で、心臓を回避するように乳房の斜めから照射します。

当院では、高解像度カメラを使用して患者さんの皮膚表面を観測することで照射の位置決めを行っており、皮膚に直接マーキングすることも低減しています。また、位置確認にもX線ではなく赤外線を用いることで被ばくすることなく、安心して患者さんに治療を受けていただく環境を整えています。

乳がん

内部からの放射線治療で 子宮頸がん根治へ！小線源治療

子宮頸がんの方に対して外部からの放射線治療に加えて小線源治療を行い、根治をめざします。具体的には、放射線を出す物質(密封小線源)を器具を介して体の中に挿入してがん放射線を直接あてる方法で、小線源治療専用の装置を使って実施しています。

当院ならではの小線源治療の強みとしては、治療の過程で毎回必ずCTとMRIを撮って、がんの範囲を厳密に確認しながら正確な照射を行っている点にあります。特に、MRIはがんの範囲を精度高く把握できます。どの医療施設においてもこの過程を経るのが理想ですが、機器がなかったり、予約で混んでいたりと、諸事情でかなわないところが多いのが実情です。当院は新館にCT装置、MRI装置ともに備わっているため、治療の流れに組み込むことができ、適正な照射に大いに役立っています。

密封小線源を用いた体内からの放射線治療は子宮頸がん以外にも使用されており、今後は当院でも適用を広げていきたいと考えています。

子宮頸がん





放射線治療センター
医学物理室 室長
宮部 結城

安全で効果の高い放射線治療をお届け

医学物理士は、放射線を用いた医療が適切に、安全性が担保された形で実施されるように管理する役割を担っています。

現在の放射線治療は高度化されているため、高性能な機器の管理が求められます。また、放射線治療自体も日進月歩で進歩しているため、年々新しい技術が開発されています。それらを専門的に習得し、臨床現場で品質管理と保証を行うのが基本的な仕事です。

実際の仕事内容としては、医師である先生方と連携をとって、一人ひとりの患者さんごとに放射線治療計画の最適化と評価を行っています。また、診療放射線技師の皆さんと協力して、治療装置の品質管理と保証を行い、患者さんへの線量が位置的にも、量的にも、適正であることを厳密に確認しながら安全な治療を支援します。

当院は高性能な治療装置がそろい、スタッフも充実して、最先端治療を実践する大学病院にも引けを取らない環境が整っています。患者さんにおかれましては、安心して治療をお任せいただけたらと思います。

がん放射線治療に精通するスペシャリストが 患者さんを徹底サポートします。

患者さんの治療の全過程への寄り添い

がん放射線療法看護認定看護師として、患者さんが初めて放射線治療に関する説明を聞くときから、治療中・治療終了後とサポートをさせていただきます。

患者さんが十分に理解した上で治療が受けられるよう、医師は治療について丁寧に説明されています。しかし、患者さんの中には放射線と聞いて漠然とした不安・恐怖を感じる方もいます。特に初診の時には同席するようにして、患者さん・ご家族が安心して、前向きに治療が受けられるように、サポートいたします。放射線治療を受けることで起こる副作用に対しては、セルフケアが重要になってきますので、ケアの指導や相談なども対応しています。

2021年に新館へ移転した放射線治療センターには、看護相談室があります。個室でプライバシーが確保された中で、ゆっくりとお話いただけます。患者さんが治療生活を送る中では、身体や心に不調をきたす時もあるかと思えます。そのような際、患者さんやそのご家族の思いや価値観に沿った生活を送ることができるよう、一緒に考えて支援したいと考えています。いつでも気兼ねなく、お声がけいただけたらと思います。

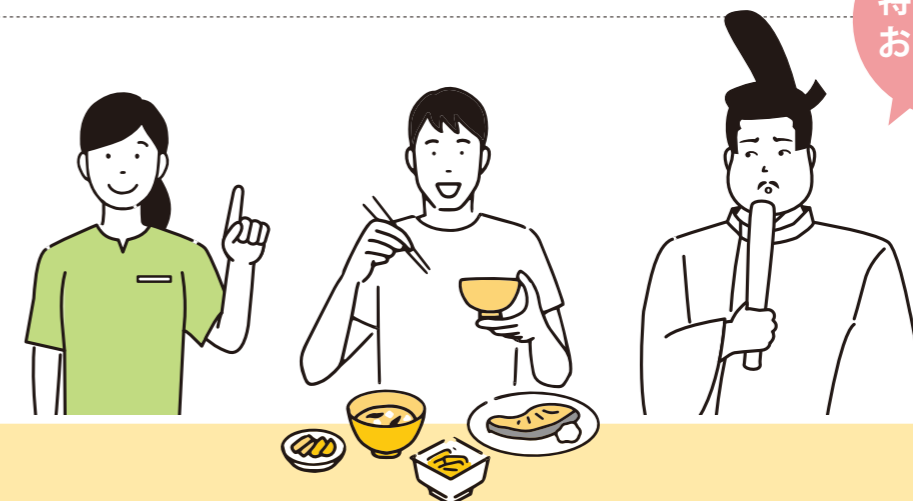
看護部
がん放射線療法看護
認定看護師
平田 夕美子



もし、藤原道長が北野病院で 現代の栄養指導を受けたら…?

～糖尿病の食事のポイント3つ～

特別版で
お届け!



日本では糖尿病予備軍を含めて5～6人に1人が糖尿病といわれています。平安時代に政治の中心的存在であった藤原道長は、文献で確認できる日本最古の糖尿病患者だったそうです^{※1※2}。もし藤原道長が北野病院で現代の栄養指導を受けたらどうなるのでしょうか。一緒にのぞいてみましょう。

管理栄養士と道長さんの4コマ栄養指導

1 2
3 4

① 食べ過ぎない(適正量を守る)。腹八分目を意識して菓子や甘い飲料は控えめに!

② 1日3食規則正しく食べましょう。食事を抜くのは避けましょう、次の食事で血糖値が急激に上がりやすくなります。

③ 栄養バランスを整えましょう。主食1つ、主菜1つ、副菜1～2つ 毎食そろえてみましょう!

平安時代にも管理栄養士がいたら良かったのう…。いざ実践じゃ～!

この内容は、2022年11月14日～19日に開催された世界糖尿病デーの当院での取り組みです。他バージョンはQRコード^{※4}からご覧ください。

管理栄養士と道長さんの4コマ栄養指導

食事の大事と聞くけど、どうしたらいいのかな…。

道長さん!初めまして!管理栄養士です。食事のポイント3つ^{※3}をご紹介します!

血糖値 (mg/dl)

朝食 昼食 夕食 時間

朝食欠食時 良い血糖値

主食 ご飯/パン/麺

主菜 肉/魚/卵/大豆

副菜 野菜/きのこ

糖尿病の食事のポイント3つは、栄養バランスが良くおすすめです。皆さんも道長さんと一緒にやってみませんか?
※治療によっては適応でない場合もございます。医師・管理栄養士にお尋ねください。

栄養部 管理栄養士 仲尾美音

【参考資料】 ※1 藤原道長、御堂関白記、長徳4年～治安元年
※2 公益社団法人日本糖尿病協会HP、月刊誌「さかえ」2013年10月号【特別企画】「世界記憶遺産登録記念 藤原道長と糖尿病」
※3 日本糖尿病学会 編・著「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」、13頁、日本糖尿病協会/文光堂
※4 QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。